

Nicolas Renard ニコラ・ルナール

地域: Loire

地区/村: アンボワーズ

造り手: Nicolas Renard ニコラ・ルナール

醸造・栽培責任者: Nicolas Renard ニコラ・ルナール



創業年: 2013 年

ドメーヌ解説:

2011年がファーストヴィンテッジ。借りた畑で栽培を行い、自身のワインを造っています。同じエリアで 3ha の畑を別途購入。今後ルーサンヌを中心に樹根し、一部グルナッシュグリュ(ペティヤンを造る予定)を植える予定だったが売却、現在はトゥーレーヌは Amboise (アンボワーズ) 周辺で 3ha の畑をレンタルしワイン造りを行っている。

畑面積: 3ha

主要品種: シュナン・ブラン、シャルドネ、ソーヴィニオン

平均年間生産量: 6000 本

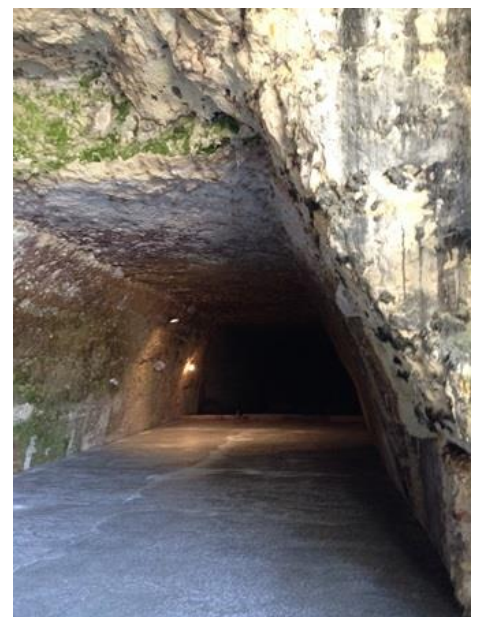
>>『ラシーヌ便り』no.108 《合田泰子のワイン便り》より、2014 年 10 月寄稿

《ニコラ・ルナールの本気》

トリノからパリ、続いてロワールへ。ニコラ・ルナールの新たな出発を確認のため訪問。思えば長いつきあいとなるニコラは、他に真似できない飛びぬけたワインを造る点にかけては、疑いなく天才です。が、天才には気まぐれがつきもの。いつも内心、ワインが商品となって出てくるまで、ハラハラしどうです。なのに、このたびは大きな嬉しい驚きでした。なんと、理想的な洞窟のカーヴを入手していたらしいのです。

今年の 1 月、「ワインを造ったので、よかったら会いにきてください」と、たった一行の SMS メールを受け取り、すぐさまニコラのもとに飛んでいったことはご存知の通り。2014 年からアンボワーズで、シュナン・ブラン、シャルドネ、ソーヴィニオンを造ることになっており、畑の旧持ち主からセラーの一部を借りると聞いていました。

がニコラは、実際に作業をするにつれて不便を感じ、自分のセラーを持つと思い立ち、つい最近インターネットで探し始めたところ、なんとアンボワーズの駅から 10 分ほどの川沿いにある、洞窟つきの廃業したネゴシアンネゴシアンの小さなカーヴが売りに出ていました。洞窟は一つ、奥行きは 10m ほどでしょうか。そうこうするうちに、隣人の洞窟も購入することになりましたが、何と奥行きは 100m もあり、中で元の洞窟とつながっていました。「私も 50 歳、最後にいい仕事をしたいからね」とのこと。値段を聞いて高くないのに驚きましたが、幸運な物件に出会えてニコラはとても満足げ。これで長期エルヴァージュ計画も、準備は万端。





■2013年1樽だけのシュナン・ブラン

です。ニコラの前途明るい再出発を、心から喜んでおります。

昨年、一樽だけ造ったロワール・シェールのシュナン・ブランは、さらに一年間樽で熟成するという。「やっぱり、私のドライなシュナンの原点は、ニコラにあった！」と叫ばずにいられない、素晴らしいシュナン・ブランでした。八月は好天に恵まれ、このまま行けば、2014年は良いとしになりそうです。

2011年からニコラが3ヴィンテッジ造ったサン・ペルレは、2012年と13年はまだ樽に入っています。この春リリースされた2011年は、ビン詰めから一年間たつて味わいが落ちつき、美しいまとまりが出てきていました。骨格・奥行きとも姿を現し、大変おいしくなっています。今後、サン・ペルレがどうなるかわかりませんが、ラシーヌとしてはロワールに専念してもらいたいと願っています。

数年間過ごしたアルデッシュでのワイン作りも、ひとまず一段落。これからはアンボワーズの理想的な洞窟カーヴで、思い切り醸造できるようになったわけ